

皮膚科のトリビア

196

浅井 俊弥(浅井皮膚科クリニック)

<http://www.asai-hihuka.com/trivia.html>

トリビア(trivia)=3を意味するtriと+道を意味するviaでもとは三叉路の意。古代ローマで三叉路が多かったことから「どこにでもある場所」、そこから転じて「瑣末なこと」となり、今では雑学的知識、豆知識、などを意味する言葉として定着している。

本欄は、小誌・浅井編集委員が学会・研究会などで見聞きした「皮膚科のトリビア」をその都度まとめ、連載しています。ご意見等ございましたら、ぜひ小誌「声」欄までお寄せください。

●第893回日本皮膚科学会東京地方会から

令和2年12月19日

pigmented epithelioid melanocytoma

80歳代女性。臀部に生じた2.5×2.0 cm大の黒色の結節。経過は数年来で、徐々に増大。潰瘍化はなし。悪性黒色腫との鑑別を要した。病理組織学的に真皮全層にメラニン色素を高度に含む類上皮細胞の増殖がある。免疫染色では悪性黒色腫で陰性となるS100、Melan-Aがともに陽性で、pigmented epithelioid melanocytomaと診断した。治療は全摘出術のみ。

一言コメント

「臀部に多く発生する、悪性黒色腫との鑑別が必要な疾患として覚えておく必要があるとのこと。病理組織像ではCarney複合で発生することのあるepithelioid blue neviと見分けがつかないらしい。」

●第893回日本皮膚科学会東京地方会から

令和2年12月19日

ブリーチ剤によるアナフィラキシー

30歳代の女性。頭髮の脱色を目的としてブリーチ剤を使用。直後から頭皮の痒みが生じ、その後全身の蕁麻疹、血圧低下をきたし、救急搬送された。ブリーチ剤には過硫酸塩(NH₃, Na, K)が用いられていて、オープンパッチテストで過硫酸塩の即時型反応が陽性。過硫酸塩によるアナフィラキシーと診断した。

一言コメント

「施術を施す美容師の発症が多いらしいが、自ら行えるセルフブリーチと称するクリームやミストも多く販売されているので、注意が必要である。過硫酸塩はさらに遅延型反応(接触皮膚炎)の原因にもなりうるらしい。」

●第893回日本皮膚科学会東京地方会から

令和2年12月19日

17℃が閾値だった寒冷蕁麻疹

川遊び中、水に浸かっていた下肢に膨疹が生じた女児。顔面蒼白となり、口唇のチアノーゼ、脱力感を生じた。TempTestで17℃が閾値と判定。全身症状をきたす寒冷蕁麻疹は小児に多く、また水中活動中に生じることが多いので、見守りを怠ると不幸な転帰に至るケースもある。

一言コメント

「夏場の水の事故として報道される例の中には、全身症状をきたす寒冷蕁麻疹が含まれているのかもしれないと思った。治療や減感作、さらに生活指導もしっかり行っていくべきだろう。」

●第50回日本皮膚免疫アレルギー学会総会 学術大会から

令和2年12月23日

常染色体劣性DOCK8欠損症

ヒトにおけるDOCK8の変異は、血清IgE高値を伴うアトピー性皮膚炎を特徴とする複合免疫不全の原因となる。DOCK8欠損マウスのCD4+T細胞は、アトピー性皮膚炎の重要な起痒物質であるIL-31を大量に産生する。IL-31の産生誘導は転写因子EPAS1に依存しており、CD4+T細胞においてEPAS1の発現を欠失させると、DOCK8欠損マウスにおける皮膚炎の発症がキャンセルされた。EPAS1はIL-31の産生を制御するための創薬標的になりうる。

一言コメント

「遺伝子の上流にある転写因子の制御による創薬が、流行になりそうだ。ただし標的となる遺伝子以外にも影響が及ぶ遺伝子があるので、基礎研究が必須と思う。」

●第50回日本皮膚免疫アレルギー学会総会 学術大会から

令和2年12月23日

アトピー性皮膚炎があると COVID-19が重症化しない？

国立国際医療研究センターによる臨床研究。COVID-19患者28例の採血検体を使い、病態の経過に沿った液性因子の経時的変化について網羅的解析を行った。その結果、軽症回復者と重症化患者を分けることが可能な因子として、CCL17、IFN- λ 3、CXCL9、IP-10、IL-6を同定した。CCL17は、重症者では、感染初期の軽症時から基準値よりも低く、その後重症化するまで低い値が続いた。一方で、軽症者では健常者とほぼ同じ値だった。残りの4因子は、感染初期では軽症者と将来の重症者に違いはないものの、重症化した患者では、数日前から急激に値が上昇することがわかった。

一言コメント

「COVID-19陽性患者の重症化リスクの判定補助のためのTARCカットオフ値は95.0 pg/mLと定められ、令和3年6月7日から保険適用となった。CCL17がもともと高値であるアトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎ではCOVID-19が重症化が実際に少なかったという論文も出ているらしい。まさか、TARCがCOVID-19に絡んでくるとは想像もしなかった。」

アレルギー性鼻炎ではCOVID-19が重症化が実際に少なかったという論文も出ているらしい。まさか、TARCがCOVID-19に絡んでくるとは想像もしなかった。」

●第50回日本皮膚免疫アレルギー学会総会 学術大会から

令和2年12月24日

眼瞼の皮膚炎にエキシマライト光線療法が有効

点眼薬や日用品による眼瞼の接触皮膚炎にエキシマライト光線療法が有効である。通常1/4～1/3MED程度の低用量でよく、痒み、赤みに顕著な効果が得られることが多い。紫外線による角膜障害は290 nm付近の波長で生じるため、308 nmの単波長で問題となることは少ない。

一言コメント

「経験はないが、試みてもよいかもしれないと思った。手の異汗性湿疹などには使用経験があるが、あまりよい印象はもっていない。線量、照射頻度などの基準があるとよいのだが。」

●第50回日本皮膚免疫アレルギー学会総会 学術大会から

令和2年12月24日

クリオグロブリンが陽性のSjögren 症候群は多発性骨髄腫に注意

60歳代の男性。四肢末梢の紫斑と動悸、息切れのため受診。血管炎が疑われた。抗核抗体320倍(speckled type)、抗SSA抗体、抗SSB抗体陽性。貧血と低アルブミン血症、腎機能障害に加え、IgGの上昇があり、クリオグロブリンが陽性だった。免疫電気泳動ではIgG- λ 型のM蛋白があった。骨髄生検で多発性骨髄腫と診断。Bld療法3クールで皮膚症状も改善した。クリオグロブリンを伴うSjögren症候群はのちに多発性骨髄腫になることがあるので、注意が必要。

一言コメント

「多クローン性のIgGと単クローン性のIgGの両方が混在したクリオグロブリンだったとのこと。貴重な症例だった。」